

【ウォータープルーフ（防水）の概念について】

製品に用いられる防水（ウォータープルーフ）とは外部から安易に水が入り込まないように加工された製品を示します。稀にウォータープルーフ（防水）の表示及び表記から一切の浸水が無いとの判断から製品のご購入をされる場合がございますが、一般的に防水の程度を示す完全防水 / 生活防水 / 日常生活防水等は日本工業規格（JIS）に規格により分類される性能を示すものではありません。

したがって JIS 規格における「水の侵入に対する保護等級」や「防水に関する規格」に対し厳密に表記の無い製品は構造的に防滴 / 防水機能をもたせた製品であり、完全水没若しくは水中における水圧及び相当の圧力のかかる状況下に於いて完璧な完全防水をうたう製品ではありませんのでご理解ください。

以上のことから弊社としましてはこれらの解釈に対してウォータープルーフや防水の解釈は日常的な撥水や防滴及び防雨と考えますのでご理解ください。

余談となりますが一般的に「完全防水」と表記可能な製品及び表記のある製品は JIS 防水保護等級 8 級を保持している製品でありこれらの製品は水中型と呼ばれ意味としては潜水状態（水深気圧の区分も存在します）での使用に対して保護されるものであり日常的に使われる製品にはおおよそ必要の無い性能だと考えます。

【素材の防水及び完全防水の概念】

一般的にゴム素材等のようにそのものが水を通さない素材部分を指して完全防水等の表記されるものが存在します。

DRY-X やストリームトレイル等のターポリン系素材もまさに完全防水素材です。注意すべきはこれらの製品は重要部分に縫製（縫い目）が見えていても内部に貫通していないか貫通部分にシール材で止水されていることです。

縫製以外に高周波による溶着を採用し繋ぎ目からの浸水はありません。

一見して同じに見えていても実は安易に水が入らないようにコストをかけて加工された製品とは工程が違う訳です。

ですから安易に防水バッグと表記する防水素材製品と止水加工を行った製品の区別はしっかりと行う必要があります。

蛇足になりますがしっかりと処理加工を行った製品であっても先に記述した「完全防水」ではなく「防水」である事をご理解ください。